

# トウキョウにぞっこん

ロンドン(上)

モードの話ではなく、ストリートスタイルの話である。どうやらロンドンで「東京はずい」といわれているらしい。パルクを生みストリートカルチャーを引っ張っていたあのロンドンで、である。かっこいいセンスは海外から、と思いきや、いる私には、何がすごいのかピンとこない。そこでうわさの周辺を歩いた。(加来 由子)

## 「エネルギーすごい」

「東京は活気があるすごい都市だった。エネルギーを感じたわ」。

ロンドンで最も勢いのある百貨店「セルフリッジ」のファッション責任者スーザン・タイドフレイターさんはいう。

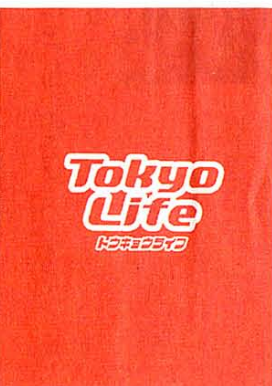
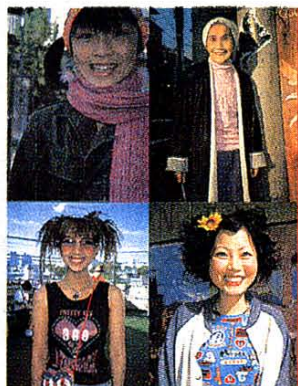
うわさは同僚から聞いた。その人は海外での仕事のついでに「ちょっと寄ってみるか」と軽いノリで東京へ。で、街に圧倒され、スーザンにしきりに「見に行け」と勧めたのだそうだ。

日本ブランドの服は同店でも人気商品。日本でも知る人ぞ知る「エヴィス」スニーカーは、一部の若者のカリスマ的な支持がさらに幅広く浸透し、1着1500円(日本円で約3万円)なのに週に120着も出ている。

スーザンの「これぞ東京」というイメージは、百貨店「セルフリッジ」がつくった「トウキョウライフ」フェアのパンフレット

洗練されたブティック、不夜城のコンビニ、ポップな自動販売機、携帯片手に歩きながら情報を得るSFマンガのキャラクターのような若者たち、原宿をかつ歩するスタイルシユな女の子たち……。「もう圧倒されっぱなしよ。ヒップでクールで最高。2000枚も写真撮っちゃった」。

それが今、逆転した。ロンドンは景気がよくなったが「消費にうつろをぬかして退屈」と田中さん。昔のロンドンのように力を感じるのはいっぱい東京だといふ。



エヴィスジーンズやエドウィンなどは若者に根強い人気＝ロンドンで/撮影・斎藤久美氏



同百貨店のチーフエグゼクティブ、ビットリオ・ラティス氏は「今の東京ストリートは、ロンドンの90年代前半を思わせる。私は、日本の景気後退は、日本人に、クリエイティブな精神を生み出させたと思う」と同展のパンフレットにつづる。